



JUMP は、2015年10月に設立し、設立当初はメンバー同士のミーティングも緊張しましたが、セミナーや訓練など、回を重ねるにつれて親しくなっていき、研修会およびシンポジウムではサポーターの先生方とも交流を行うことができました。小さなことをコツコツと積み上げていくことが重要であると考えており、私どもの活動を理解してくださっている皆様方のご協力に感謝しております。本年も、「平時及び有事において一人でも多くの身元不明者の身元を特定し行方不明者を減らす」という目的のために、成長していく所存ですので、引き続きご支援のほど、どうぞよろしくお願いたします。

## 2017年の活動報告

1月8日  
第2回 企画セミナー

9月3日  
ICPO式DVI方法を用いた  
身元確認机上訓練



香川県歯科医師会様のご協力により、International Criminal Police Organization (ICPO)の推奨する身元確認(DVI)方法を用いた机上訓練を実施しました。医師・歯科医師・警察官・海上保安官など総勢約100名が参加しましたが、具体的には、4職種の専門家が1チームとなり、遺体役の人形に対してICPO式DVIフォームである死後記録を完成させました。現在、参加者様へのアンケートにより、日本式とICPO式を比較検討し、我が国の身元確認と多職種連携の在り方および連携体制について検討しております。

 第2回 JUMP企画セミナー

海外の身元確認システムに学ぶ  
日本はどうすべきなのか

2017 / 8 (日)  
14:00~17:00

招待講演 Sang-Seob Lee 先生   
(韓国 National Forensic Service (NFS) 所属 歯科法医学者)

「Cases of dental identification in recent mass disasters and detail overview of dental module in MIM (Mass ID Manager)」  
(逐次通訳：鶴見大法医学 山村恵子先生)

教育講演 熊谷 章子 先生   
(岩手医大 口腔外科)

「ベルギーの歯科法医学について」

歯科医師

医師



大変寒い雨の中、約40名が東京駅八重洲ホールに集まってくださり、韓国の身元確認システムとベルギーの歯科法医学及びブリュッセル連続テロ事件における対応の講演に耳を傾け、約1時間もディスカッションしました！大変有意義な時間でした！！

※公益社団法人ファイザーヘルスリサーチ振興財団第25回研究助成金にて一部助成

- 10月13日 第18回日本法医学会学術北日本地方集会(岩手) 口演発表  
「ICPO式DVIを用いた身元確認訓練—多職種連携の机上訓練の試み—」
- 10月28日 第86回日本法医学会学術関東地方集会(東京) 口演発表
- 11月18日 第11回日本法歯科医学会学術大会(千葉) ポスター発表

# 次の大規模災害にどう立ち向かうか ～様々な職種からの提言～

平成29年10月22日(日) 13:00～17:00

鶴見大学学生会館地下1階 メインホール  
(横浜市鶴見区豊岡町3-18)

参加費無料

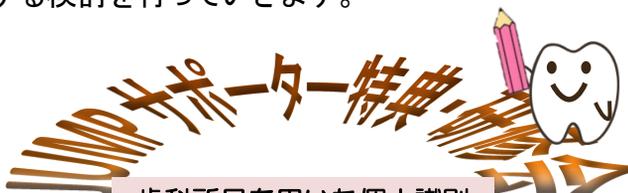
10月22日  
鶴見大学にて  
研修会および  
シンポジウム開催

JUMPおよび鶴見大学先制医療研究センター共催にて、シンポジウム「次の大規模災害にどう立ち向かうか～様々な職種からの提言～」を開催しました。大規模災害対応に関して、行政、警察、葬祭業、医師、歯科医師のそれぞれの立場からの意見を述べ、フロアの方々とのディスカッションを行いました。今後、JUMPは、本シンポジウムで多職種参加により得られた多角的な視点から日本の身元確認作業の現状を再検証し、今後の大規模災害における日本のDVIシステム構築に関する検討を行っていきます。

## プログラム

コーディネーター：鶴見大学先制医療研究センター教授	佐藤慶太氏
「多職種連携に基づく身元確認訓練について」 千葉大学大学院法医学教室准教授・JUMP代表	斉藤久子氏
「行政の立場から」 横浜市健康福祉局健康安全部長	大貫義幸氏
「警察の立場から」 警視庁刑事部鑑識課統括検視官 警視	松浦秀一郎氏
「葬祭業の立場から」 全日本葬祭業協同組合連合会副会長・ 神奈川県葬祭業協同組合理事長	石井時明氏
「医師の立場から」 神奈川歯科大学教授・神奈川創検センター長	長谷川 巖氏
「歯科医師の立場から」 鶴見大学歯学部法医歯学教室准教授	勝村聖子氏

※公益社団法人ファイザーヘルスリサーチ振興財団第25回研究助成金にて一部助成



## 歯科所見を用いた個人識別

～デンタルチャートを書いてみよう～

### 実習内容

- ① AiセンターでのCT撮影  
身元確認におけるCT画像の活用性
- ② 口腔内情報の獲得の実際  
歯科所見採取/写真撮影/X線写真撮影
- ③ 歯科所見を用いた個人識別  
歯科診療情報システムを活用した照合



産経新聞 2017年10月25日

### 大規模災害時の連携強化へ 鶴見大で医師らシンポ

大規模災害の発生時に犠牲者の身元確認や被災者支... 鶴見大で医師らシンポ

同歯科大学の長谷川巖教授、法医学の東日本大震災と阪神淡路大震災は、発生時期が冬だった。次の発生時期が夏に起きた場合、多くの面でこれまでと異なる対応が必要になる」と指摘。急速に進む遺体の死後変化への対応として、オーストラリアでは遺体安置所にタクトを通じて外部

グループから冷風を送る仕組みがあることなどを挙げ、態勢確保の必要性を訴えた。

市健康福祉局健康安全部の大貫義幸部長は、災害時に全国から届く機物資の確保について、民間の宅配業者の大型倉庫にいったん収集してから各避難所などが必要分を取り寄せるといった市のシステムを説明。東日本大震災で需要と供給が合致しない事態が頻出したことを教訓に採用したものだといふ。今後ともさまざまな考え方を取り入れ、できる限りの準備をしていきたいと話した。

## 過去の日本の災害調査

2月13日 第22回日本集団災害医学会(名古屋)ポスター発表「過去の災害における歯科身元確認の問題点」

## 海外視察

韓国National Forensic Service(NFS)より招待(仲介: 歯科法医学者Dr.Sang-Seob Lee)  
10月29日～11月1日  
メンバー熊谷章子氏・岡広子氏の2名視察

## 身元確認先進国における災害対応調査

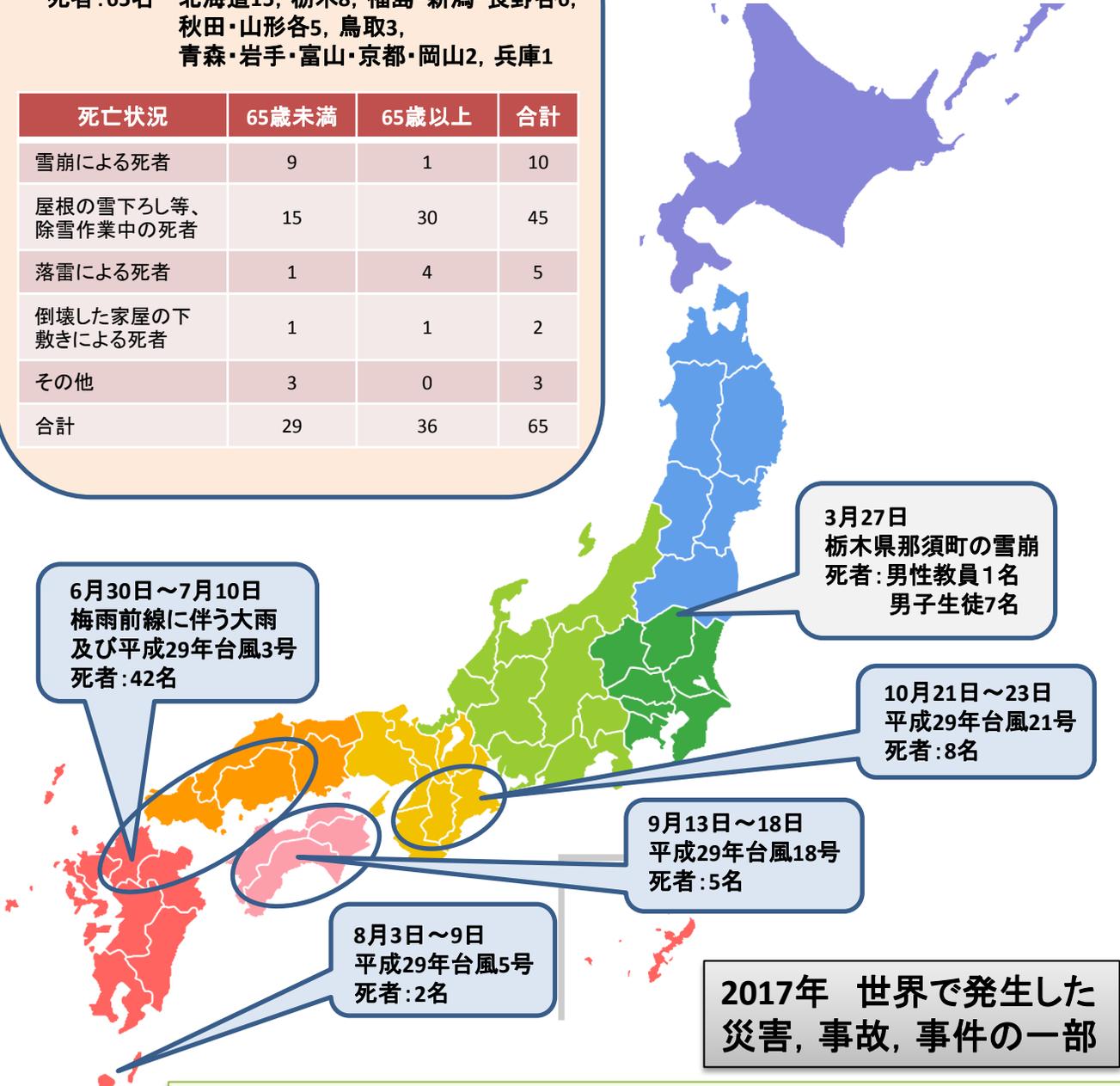
11月18日 第11回日本法歯科医学会学術大会(千葉)ポスター発表「身元確認先進国における歯科の災害対応に関する調査報告」

# 2017年 日本で発生した主な自然災害

死者の発生した災害についてのみ記載  
 「内閣府 防災情報のページ」引用  
<http://www.bousai.go.jp/updates/index.html#h29>  
 ※死者数は災害発生直後のもので変わることあり

2016年11月～2017年4月冬期の大雪等による被害状況  
 死者：65名 北海道15, 栃木8, 福島・新潟・長野各6,  
 秋田・山形各5, 鳥取3,  
 青森・岩手・富山・京都・岡山2, 兵庫1

死亡状況	65歳未満	65歳以上	合計
雪崩による死者	9	1	10
屋根の雪下ろし等、除雪作業中の死者	15	30	45
落雷による死者	1	4	5
倒壊した家屋の下敷きによる死者	1	1	2
その他	3	0	3
合計	29	36	65



## 2017年 世界で発生した災害, 事故, 事件の一部

- 8月25日 ハリケーン「ハービー」・・・テキサス州南東部に上陸 死者70名
- 9月5～6日 ハリケーン「イルマ」・・・カリブ海諸国他で大被害 死者134名
- 9月19日 メキシコ中部地震・・・M7.1の地震, 20以上の建物崩壊 死者361名 など

- 6月14日 ロンドン高層住宅火災: 高層住宅マンション「グレンフェル・タワー」で発生した火災 死者70名
- 10月1日 ラスベガス銃乱射事件: 前年のフロリダ銃乱射事件の死傷者数を超え、史上最悪の事件。死者59名(容疑者1名を含む), 負傷者数546名 その他: 8月17日バルセロナテロ攻撃事件など

